

ふくせんが研修ポイント制度についての シンポを開催

全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん、山下一平会長）は昨年12月17日、東京・品川駅前のきゅりあんにて、福祉用具専門相談員の研修ポイント制度についてのシンポジウム&タウンミーティングを開催した。

始めに山下一平同協会長が挨拶に立ち、現在同協会が公費補助を受けて進めている「福祉用具専門相談員の研修ポイント制度」は、利用者やケアマネにその情報を公開することで、よりサービス業に近くなり、専門相談員の専門性の確立と福祉用具の普及に役立つものであると述べた。

次に最初に基調講演をした前厚労

省老健局長の宮島俊彦氏は、政権交代があっても自民党の福田内閣時代にすでに現在の既定路線が引かれており、今後も、大きく変わらないであろうと述べ、また、2025年問題に向けて財源問題が再び登場するであろうと指摘した。

次に基調講演をした厚労省の宮永敬市福祉老健振興課福祉用具・住宅改修指導官介護支援専門官は、利用者の能力を奪ってしまうような始めにサービスありきの支援は、介護保険制度の理念からもズレていると指摘。より高齢者の背景や価値観にそった人生の再構築が出来るような生活のニー

ズを見極めた自立支援に質するマネジメントを考えることが肝要と述べた。

シンポジウムでは（コーディネーター：白澤政和・桜美林大学大学院老年学研究科教授）、助川未枝浦・日本介護支援専門員協会副会長がこの「見える化」は、今後ケアマネにも求められるであろうと指摘。渡邊愼一・神奈川県作業療法士会会長は、今年の4月からスタートする同事業の概要と5年毎のタイムテーブルのスケジュールについての説明があった。なお、会場からは、福祉用具を普及するために過去に東京・千代田区飯田橋にあったような展示場を求める声も上がった。